

# AJEQ ニュースレター

## 秋季号（全国大会特集）の内容

盛り上がった関西初の大会：立花副会長  
2013年度全国大会を振り返って：大石大会実行委員長  
全国大会各セッションの要旨：各セッション担当者・発表者  
日ケ交流40周年記念出版物の概要・目次；AJEQ奨励賞の授賞式

## 盛り上がった関西初の大会：立花副会長

**第**5回全国大会が10月12日関西学院大学で開催された。今回は初めて関西に会場が移されたこともあり、関係校の負担が重かったにちがないが、結果はすばらしい大会となった。準備・運営に携わった大石先生と鳥羽先生に心より感謝の意を表明したい。

参加者も多く、どの企画も充実し、活発な討論が見られた。プログラムが盛り沢山だったこともあり、予定時間を大幅にオーバー、これも内容が濃かったことの証だろう。

午前中は自由論題のセッションで、応募者も増えたため、次回以降に回っていただいた会員もいたほどである。韓国ケベック学会から参加したコー・ヘーサン氏の発表も加わった。午後は、(1)ワークショップ「ケベックとベルギー：フランス語圏の多元社会－言語、政治、文学」、(2)ワーク・チョング氏講演、(3)「日

ケ交流40周年記念シンポジウム」と大きなセッションが連なった。

(1)はベルギー研究会との共催。両国とも言語問題を抱える共通点があり、言語政策、アイデンティティなど、興味深い比較論が次々と出た。

(2)のワーク・チョング氏の講演は、氏の特異な経歴と独自の作品世界を背景に人間味溢れるもので、ケベック現代文学の豊かさと多様性を改めて感じさせた。(3)は、同時に刊行された『遠くて近いケベック』をベースにケベックの独自性を領域横断的に論じるもの。それに加えて、韓国ケベック学会のシン・ジョンガ氏がワーク・チョング論を展開した。

更にこのセッションで、マルク・ベリヴォー氏の会場からの発言もあり、ドゥロンジエ新州政府在日事務所代表に本学会の活動を披露できたことにはなによりだった。懇親会も盛り上がった。みなさま、お疲れさまでした。

(立花英裕 AJEQ 副会長)



上：立花副会長、中：ドゥロンジエ新代表、下：大石大会実行委員長挨拶

### 日本ケベック学会(AJEQ)とは

「日本ケベック学会」(AJEQ)は、日本でのケベック・フランコフォニーに関する学術研究・芸術文化交流などを振興し推進する学会です。ケベックやフランコフォニーにご興味のある方の参加をお待ちしています。

学会活動の詳細は以下のホームページ(HP)とブログをご覧ください。  
HP: <http://www.ajeqsite.org/>  
ブログ: <http://ajeq.blog26.fc2.com>

## 2013年度全国大会を振り返って：大石太郎

10月12日、鳥羽美鈴会員(関西学院大学)の総合司会のもとに、2013年度全国大会が幕を開けた。まず大会実行委員会として私が開会の辞を述べた後、関西学院のルース・グーベル院長が歓迎の挨拶として、マギル大学で学び、Mastery for Serviceというスクールモットーを関西学院に遺した第4代院長C.J.L.ベーツのエピソードを中心に、関西学院とケベックと

の縁を紹介した。続いて小倉和子会長、さらには州政府在日事務所クレール・ドゥロンジエ新代表による挨拶があった。学会創設以来、東京以外では初めての全国大会であったが、幸いにも多くの参加者にめぐまれ、ベルギー研究会との合同ワークショップをはじめ、各セッションで活発な議論がおこなわれた。支援いただいたすべての皆様に感謝申し上げたい。

## 2013年度全国大会の各セッション要旨（担当者・発表者まとめ）



### 10:10-12:00 自由論題セッション（司会 廣松 勲）

自由論題セッションでは、神崎舞会員（大阪大学大学院）、矢内琴江会員（早稲田大学大学院）、陶山宣明会員（帝京平成大学）、そしてコー・ヘーサン氏（韓国基督教大学、韓国ケベック学会）の研究発表が行われた。神崎会員の研究では、R・ルパージュにおける映像の文法が、貴重な映像資料なども用いて詳細に分析された。矢内会員の発表では、フェミニズム思想を土台として社会教育的観点から論じられた。陶山会員の発表では、ケベックとスコットランドにおけるナショナリズムの発生状況・形態などが比較分析された。コー・ヘーサン氏は、M・トランブレイの小説『Le Mur』を主たる分析対象にして、そこで「幻想」的世界がどのような文体と文脈に則って描かれるのかを論じた。



### 13:30-15:30 ワークショップ「ケベックとベルギーの多元社会」（コーディネーター 真田桂子）

ワークショップはベルギー研究会との共催で、ともに周縁性とマイノリティ性を特徴とする仏語圏の多元社会ケベックとベルギーについて、政治、言語、文学の多面的な角度から比較検証を行った。荒木隆人会員はマルチナショナル連邦制におけるケベックの言語権をめぐる論争、石部尚登氏（ベルギー研究会会員）はベルギーのフラーンデレン、ワロニーの両地域におけるケベックの言語政策の影響について、また三田順氏（ベルギー研究会会員）は19世紀末のベルギー仏語圏文学におけるアイデンティティの形成と対立、

真田桂子会員は国民文学から移動文学へと変遷したケベック文学の多元化とその波及について報告した。相対的でグローバルな視点からの刺激的な発表が続き、岩本和子氏と丹羽卓氏からのコメントと質疑応答によって考察が深められ、会場は熱気にあふれ、両地域の研究に新しい展望を開くセッションとなった。



### 15:45-16:30 基調講演：ウーク・チョング「ケベック・韓国・日本の狭間で書く」（司会 小倉和子）

日ケ交流40周年を記念するシンポジウムの基調講演者として、ケベック州政府および国際ケベック学会の招聘で来日したウーク・チョング氏は、横浜生まれの韓国系ケベック作家で、フランス語文学研究者でもある。2歳のときに家族とともに日本からモンレアルに移住し、101号法とともに育った世代である。現在ほど民族の多様性に開かれていたとはいえない40年前のケベック社会で思春期に「いじめ」を受け、「ひきこもり」を経験したことが作家になったきっかけだという。30代になって初めて日本に戻り、その後、韓国にも滞在しながら、書くことを通じて三重のアイデンティティを探索しつづけている。講演では自身の来歴だけでなく、間文化主義を推進する現代のケベック社会や、そこで活躍する移住作家たちの状況にも触れられた。



### 基調講演者ウーク・チョング氏について（AJEQインタビューより）

質問：「幼少のころ日本からカナダに移住されましたが、日本がどのように著作活動に影響を及ぼしていますか。」

答：「日本は私の小説の題材として役立っています。『禁じられた実験』では、姫路城がこの小説の枠組みとして使われており、さらに短編集『舞踏物語』では、そのタイトルが示しているように、日本の舞踏に関連する事柄が取り上げられています。このように著作活動上も個人的にも、日本との関係を常に保っています。」



### 16:30-18:00 日ケ交流40周年記念シンポジウム「ケベックの創造性—ナショナルとトランスナショナルの狭間で」（発表者 小松祐子）

本シンポジウムの前半では「<遠くて近いケベック>...そして日本」と題し、日ケ交流40周年記念出版物に関する報告があった。司会の立花英裕会員（早稲田大学）による全体説明に続き、池内光久会員（日本カナダ検定協会）が経済・産業、小倉和子会員（立教大学）が視覚芸術・舞台芸術、小松祐子会員（筑波大学）が教育・研究、最後に立花会員により外交および言語・文学について、それぞれ日ケ交流の意義が示された。シンポジウム後半では、韓国ケベック学会のシン・ジョンガ会員（韓国外語大学校）が「ウーク・チョング『キムチ』に見られるアイデンティティ探究の文化横断トポス」についてフランス語で発表を行い、ゲストのウーク・チョング氏により発表の感想がのべられた。

## 日ケ交流40周年記念出版物『遠くて近いケベック』の概要・目次

『遠くて近いケベックー日ケ40年の対話とその未来』  
2013年10月発行、御茶の水書房（本体3400円＋税）

日本ケベック学会日ケ交流40周年記念事業編集委員会  
委員長：小畑精和、編集委員：小倉和子、小松祐子、  
立花英裕、宮尾尊弘（HPインタビュー担当）、マルク・ベリヴォー

「日ケ40年の対話から浮き彫りになる、ケベックの新たな創造性」（本の横帯より）

「本書は、40年前にケベック州政府在日事務所が東京に開設されて以来育まれてきた日本とケベックの関係をもとに、そこから新たな交流を構想することを目的に編まれている」（小畑編集委員長序文より）

### 目次

序 C. Y. シャロン、小畑精和、M. ベリヴォー、宮尾尊弘、C. ドゥロンジエ

第1章 外交・市民交流 (I) 概観：小畑精和 (II) インタビュー：N. ベルニエ、I. グレゴワール、C. スピアー、J. L. ロワ (III) エッセー：西岡淳、田中勝邦、西口信吾、瀬藤純彦

第2章 言語と文化 (I) 概観：立花英裕 (II) インタビュー：J. ゴドブー、A. ジラルル、O. チョング (III) エッセー：小畑精和、山出裕子

第3章 視覚芸術・舞台芸術 (I) 概観：小倉和子 (II) インタビュー：F. バック、R. ルパージュ、J. モンプティ、小野晋司、C. デカリ (III) エッセー：曾田修司、岡見さえ

第4章 教育・研究 (I) 概観：小松祐子 (II) インタビュー：小倉和子、金谷武洋、J. F. ビソン、小林順子 (III) エッセー：R. ルクレール、岩田好司、伊達聖伸、松川雄哉

第5章 経済・産業 (I) 概観：池内光久、L. ベランジェ (II) インタビュー：J. ダウ、A. バゼルギ、S. ボーリュウ、Y. シール (III) エッセー：佐藤ゆき子、L. ベランジェ、M. ベリヴォー

第6章 未来を語る 山口いずみ、近藤野里、仲村愛、廣松勲、佐々木菜緒、落合ギャラン健造、神崎舞、矢内琴江、柴野宣子、サンドラ・ワタナベ

あとがき 小倉和子

## 日本ケベック学会奨励賞の授賞式

2013年度の日本ケベック学会奨励賞は以下の2人の会員への授与が決まり、全国大会の際に開かれた総会の最後に、授賞式を行った。

受章者（1）飯笹佐代子会員（東北文化学園大学）  
および（2）山口いずみ会員（津田塾大学）

右の写真は授賞式出席の飯笹会員（左）と小倉会長



### 後記

今年の日本ケベック学会の全国大会は、ベルギー研究会との共催ということもあり、ケベックを今までとは違った角度から見る事ができるものでした。基調講演では、日本生まれの韓国系作家ウーク・チョング氏のお話をうかがい、彼のような多様なアイデンティティをもった移民たちが、現在のケベック文化の中心に位置していることがよく分かりました。今回も執筆をお願いした先生方には、お忙しい中、迅速に対応いただきましたことに深くお礼を申し上げます。引き続きの皆様のご協力をお願い申し上げます。山出(広報委員・NL担当)

#### AJEQ ニュースレター

年3回発行  
発行人・小倉和子  
編集人・山出裕子  
日本ケベック学会

#### AJEQ ホームページ

<http://www.ajeqsite.org>  
日本でのケベックに関する  
学術研究・芸術文化交流を  
振興し推進する学会のHP

#### 日本ケベック学会(13年11月現在)

##### ●主要役員 広報委員会

小倉和子(会長)	山出裕子
竹中 豊(副会長)	小松祐子
立花英裕(副会長)	安田 敬
小畑精和(顧問)	宮尾尊弘
*クレール・	シシュ・
ドゥロンジエ(顧問)	ディディエ

\*ケベック州政府在日事務所代表。